

## 第9章 昭和58年度山口大学構内の立会調査

### 第1節 吉田構内の立会調査

#### 1 理学部大学院校舎新営および付随工事に伴う立会調査

調査地区 吉田地区理学部構内M・N・O-20区, O-21区 (Fig.91 PL.1-50)

調査期間 昭和58年6月17・18日 10月18日 昭和59年3月26日～3月28日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 A区210㎡ B区32㎡ C区23㎡ D区36㎡ E区20㎡ F区85㎡ G区3㎡

調査協力 人文学部考古学研究室

調査結果 D区以南、以北の現地表面は階段状に南部が一段高所に位置し、その比高差は90～100cmである。昭和53年度に実施された人文学部校舎新営に伴う試掘調査では旧耕作土直下に黄褐色粘土の地山が確認されたが、今回の調査ではA・D両区の旧耕作土下に4層の無遺物層を介して現地表下120cmで地山に達する。また、B・C・E区では各区とも16～20cmの腐蝕土、構内造成時の置土を含む表土直下が地山で、A～E区とも検出地山面の標高は20.80～20.90mである。F区西端では旧耕作土下標高19.60～19.80mで地山が検出され、y=620ラインでの地山の削平がみられる。

各区とも顕著な遺構・遺物は認められなかった。

(河村)

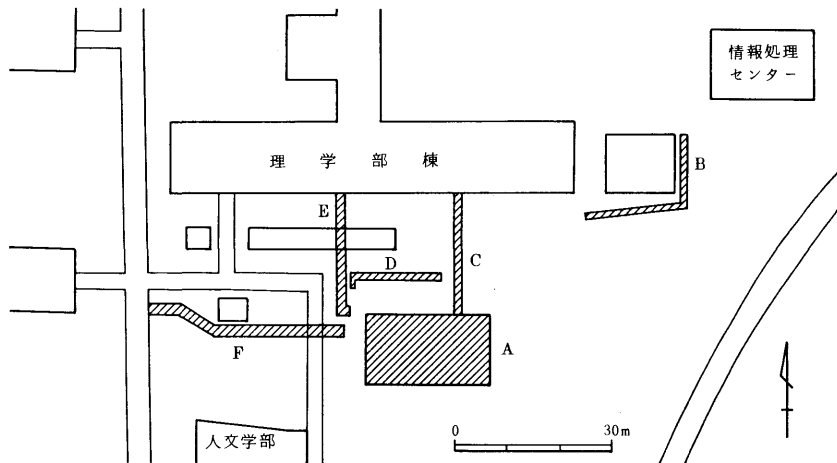


Fig.91 調査区位置図

## 2 正門・南門二輪車置場および正門花壇新営に伴う立会調査

調査地区 吉田地区本部構内 I-12・13区, J-13区, H-23区 (Fig.92, 93 PL.1-51)

調査期間 昭和58年12月6日～12月14日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 A区140㎡ B区23㎡ C区8㎡ D区12㎡

調査結果 花壇新営予定地A区をはじめとしてB・C区は支柱基礎部分、すなわちB区30地点、C区20地点、D区16地点について遺構・遺物の有無、土層の堆積状況を観察した。

現地表面は各区ともほぼ平坦で起伏がない。A～C区では土層の堆積厚は若干異なるが、工事規模範囲内では上部より厚さ10～17cmのアスファルトおよび碎石下部に厚さ30～43cmの構内造成時の置土が続く。A区は比高差39cmとB区より低く、少なくともA区現地表面下50cmまでは地山面は検出されない。D区では厚さ12～17cmの腐蝕土下部に厚さ13～18cmの構内造成時の置土が堆積し、C・D両区付近では現地表面下60cmまでは人為的な二次堆積層で遺物包含層および地山は認められない。

なお、D区の東方、野球場南東部では試掘調査時に弥生時代前期および中期の竪穴式住居跡が検出されたといわれるが、規模、分布範囲等不明な点が多く今後の詳細な調査が必要であろう。

(河村)

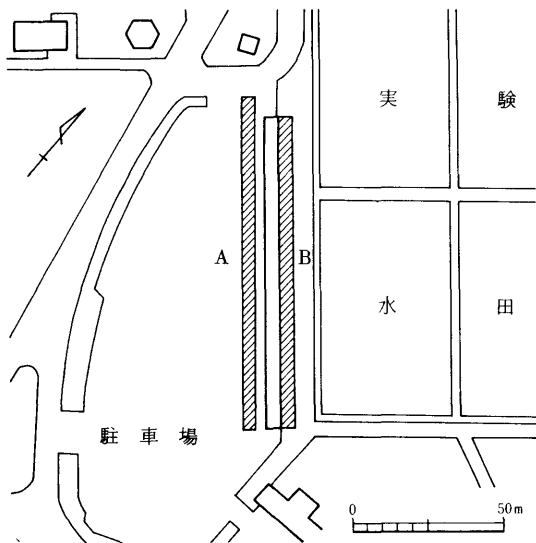


Fig.92 調査区位置図(1)

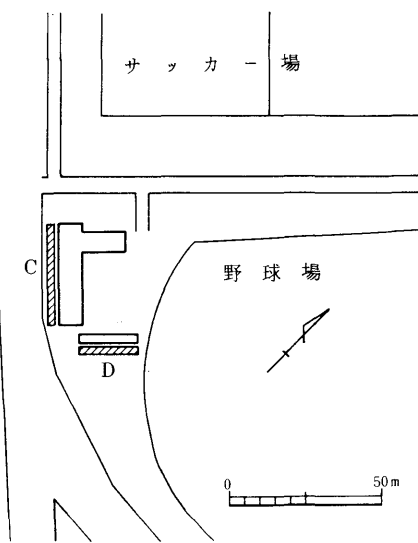


Fig.93 調査区位置図(2)

### 3 学生部アーチェリー場的台・電柱設置に伴う立会調査

調査地区 吉田地区構内・M-8区 (Fig.94 PL.1-52)

調査期間 昭和59年2月1日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 33㎡

調査結果 当該地域は大学キャンパスの北部にあたり、姫山から南へ派生する低丘陵の先端部付近に位置する。アーチェリー場的台設置工事においては東西および南北に直交するトレンチを設定して遺構・遺物の有無、土層の堆積状態を観察した。その結果、腐蝕土および構内造成時の置土を含む厚さ30cmの表土直下が岩盤となっており、上述した丘陵は工事予定地付近で東西に切断されていることが確認された。このことは現アーチェリー場東半部も同様の状況を示すものと理解された。また、電柱設置地点は丘陵の西縁辺部にあたり、腐蝕土以下は東半部における丘陵削平土を客土した置土に続き現地地表下約2mで岩盤に達する。従って、当該地域は過去に遺構・遺物が埋存していたとしても削平により消失した可能性が強い。

(河村)

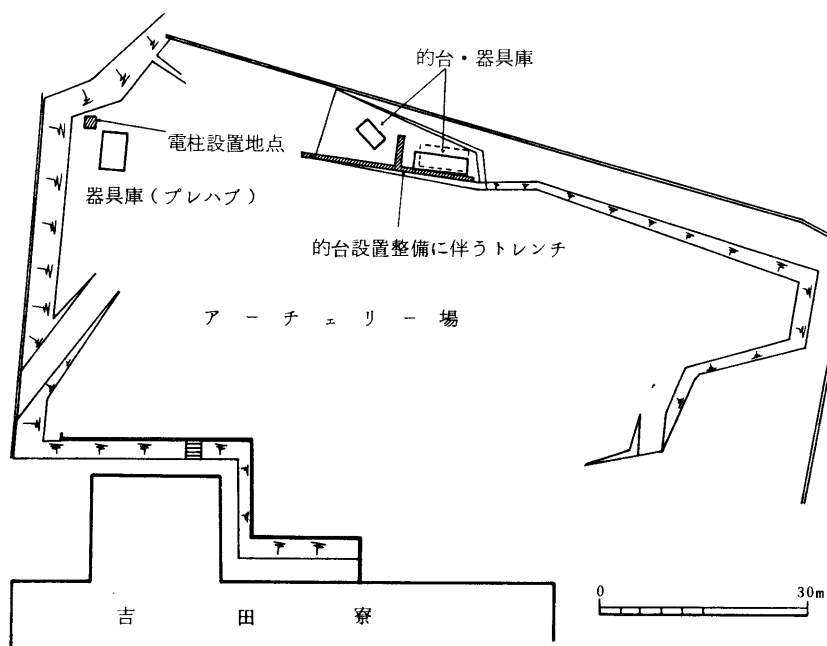


Fig.94 調査区位置図

#### 4 学生部厩舎散水栓工事他に伴う調査

調査地区 吉田構内 L-9区 (Fig.95 PL.1-53)

工事事項 厩舎散水栓取設工事・厩舎便所水洗化工事

調査期間 昭和59年2月1日

調査方法 工事施工直前における試掘立会調査

調査面積 約1.6㎡ (散水栓に伴う調査約1㎡・便所水洗化に伴う調査約0.6㎡)

調査協力 学生部

調査結果 両工事取設範囲内の二カ所に試掘坑を設定し、工事基盤である地表面下30cmまで掘り下げた結果、その間の土層は腐蝕土および近年の埋め土であり、自然堆積層・遺物包含層等は全く検出されなかった。そのため今回の工事では直接埋蔵文化財に対して支障はなかった。

(森 田)

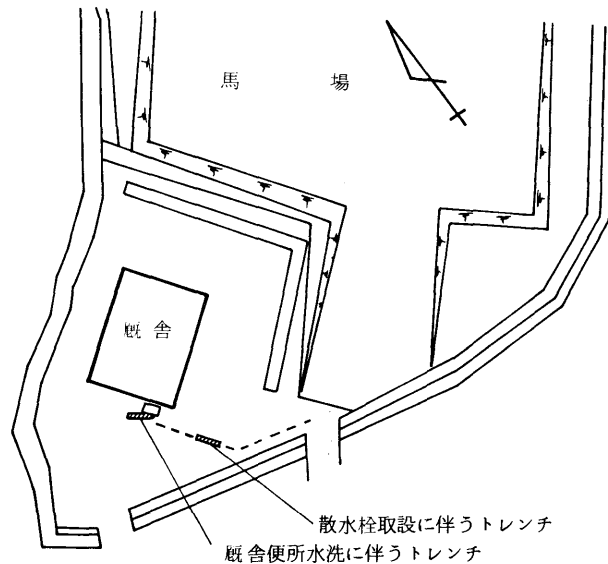


Fig.95 調査区位置図

## 5 学生部野球場散水栓取設工事に伴う調査

調査地区 吉田構内 JK-21区 (Fig.96 PL.1-54)

工事事項 野球場散水栓取設工事

調査期間 昭和59年2月1日

調査方法 工事施工直前における試掘立会調査

調査面積 1㎡

調査協力 学生部

調査経緯・結果 工事そのものは二カ所における (Fig.96 A・B地点) 既設散水栓の一部改善であるが、その予定する既設部分の詳細な位置が不明確のため、場合によっては工事掘削が既往掘削部分以下におよぶ可能性も予想されること、また、このグラウンド面での埋蔵文化財に関するデータが無く、支障の度が全く判断できないことから小規模の工事ながら調査を実施した。掘削の結果、A地点では地表面下130cm、B地点は105cm下で既設配管上面が確認され、その掘削は両地点共に既往掘削部分の範囲内に留まり、直接埋蔵文化財に影響は無かった。しかし、A地点での既往掘削墳埋め土の中に遺物包含層 (黒褐色粘土) がブロックとして混入されており、少量ながら弥生土器を認められた。またB地点では、既往掘削壁面より未掘部分の土層状況が観察できた。それによると地表面～44cm下-整地土・置土。44～60cm下-灰色土。60～70cm下-黒褐色粘質土 (遺物包含層と思われる)。70cm下-黄褐色粘土 (地山) であることが確認され、今後この周辺における調査の判断資料を得ることができた。

(森田)

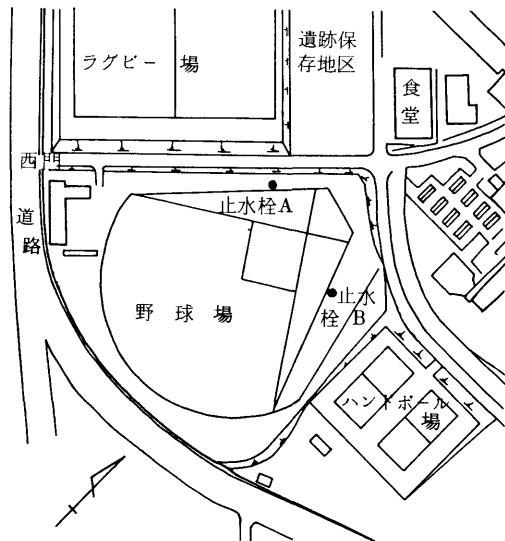


Fig.96 調査区位置図

6 学生部テニスコートフェンス改修に伴う立会調査

調査地区 吉田地区構内 C-17・18区, D-16・17区, E-16区 (Fig.97, 98  
PL.1-55)

調査期間 昭和59年3月12日～3月28日

調査方法 工事施工時における立会調査

調査面積 12㎡

調査協力 人文学部考古学研究室

調査結果 テニスコートフェンス新規  
支柱基礎部分8カ所について、工事  
規模に対応して遺構・遺物の有無、  
土層の堆積状況を観察した。従って、  
地山面は検出していない。

なお、東西方向の新規支柱基礎部  
分は既設埋設物、側溝等による攪乱  
が認められたため調査対象箇所より  
除外した。

その結果、A・C・F各地点の一  
部は攪乱を受けていたものの弥生時  
代から古墳時代の少なくとも4枚の  
遺物包含層が検出された。しかし、

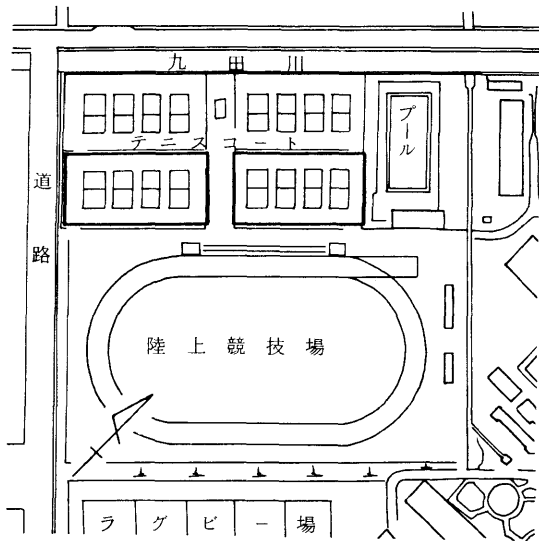


Fig.97 調査区位置図

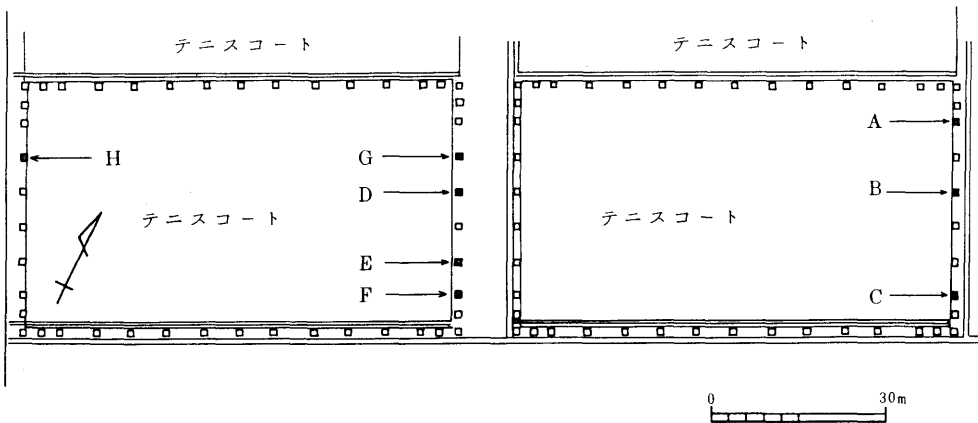


Fig.98 トレンチ位置図

学生部テニスコートフェンス改修に伴う立会調査

各地点とも調査面積が狭小であるため遺構の埋土である可能性も残存する。各土層は概ね整合的に堆積するが、第5層茶褐色砂質土はB・C・F三地点で認められ、周辺の土地利用状況を勘案すると南から北への地山面の下降に対応した堆積状態を示すものと思われる。また、テニスコート北端部には九田川が北東から南西に流路をもつが、今回の調査地域内ではその氾濫原はみあたらず、良好な遺物包含層ないしは遺構が南部にかけて分布しているものと推察される。さらに、G地点では黄橙色粘質土を掘り込んで柱穴が検出されたが時期は不明である。

なお、本工事の掘削規模は第2層旧耕土ないしは第3層旧床土までであり、それ以下についての現状変更はない。

(河村)

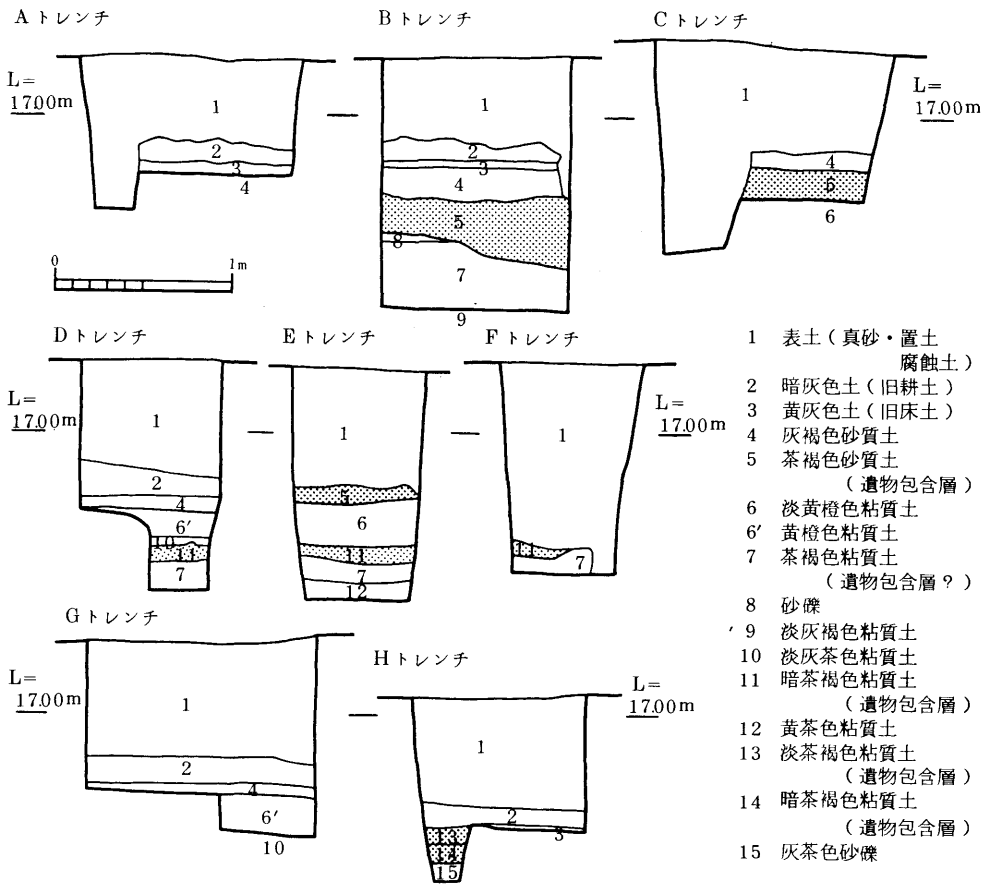


Fig.99 土層断面図

7 教養部環境整備に伴う立会調査

調査地区 教養部構内 I-16・17区, J-17区, K・L-17・18区 (Fig.100 PL.1-56)

Tab.20

事 項	調 査 期 間	調 査 面 積 (㎡)	調 査 方 法
樹 木 移 植	昭和59年 3 月16日	30	工事施工時における立会調査
屋外掲示板新設および改修	昭和59年 3 月22日	3	
自転車置場アスファルト舗装	昭和59年 3 月22日	35	
排水溝新設	昭和59年 3 月22日	13	

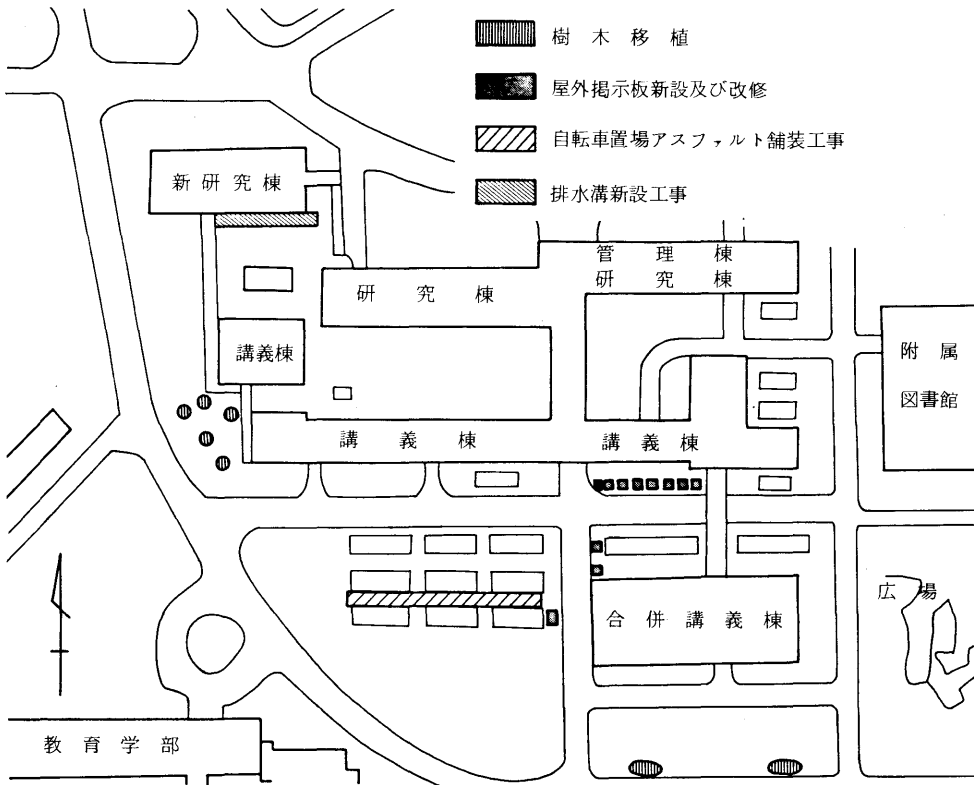


Fig.100 調査区位置図



## 教養部環境整備に伴う立会調査

調査結果 樹木移植においては7地点について立会調査を実施したが、工事規模との関係上、最北端のA地点に限定して土層の堆積状況、遺構・遺物の有無を観察した。その結果、現地表下約100cmまでは腐蝕土および構内造成時の置土を含む表土で、それ以下は無遺物層である厚さそれぞれ12cm、10cmの黄灰色粘質土、暗灰色土を介在して黄灰褐色土、灰茶褐色土、黄茶褐色土と続く。厚さ20cmの堆積をもつ黄灰色粘質土は弥生土器を包含し、灰茶褐色土および黄茶褐色土と共に遺物包含層ないしは遺構覆土と考えられる。なお、調査範囲内では地山は確認していない。

また、屋外掲示板新設および改修においては工事による掘削を伴う支柱基礎部分11地点について調査を実施した。講義棟に平行して東西方向に設定された8地点（東から第1，第2……第8地点と呼称する。）では第1～第4地点までは厚さ約45cmの腐蝕土および構内造成時の置土を含む表土直下が黄褐色粘質土の地山となっている。また、第5～第8地点では厚さ60～65cmの表土下部に茶褐色粘質土の遺物包含層が確認された。さらに、合併講義棟北西隅では表土直下、すなわち現地表下45cmで青灰色粘質土の地山が検出され、少なくともこの付近と第4ないしは第5地点を結ぶラインから地山は西方へ下降する状況が観察された。

キャンパス内は構内地区割基準ライン（PL.1）17および18によって現地表面の状況を見ると、造成によって東西方向に上位（東部）から下位（西部）にかけて少なくとも5段の平坦面を形成しているが、今回の調査地域は概ね上位から3段目の平坦面に包括されるものである。したがって、教養部構内、特に講義棟以南の地域においては隣接する広場との比高差が1.1mあることなどから、上述ライン以東の地山はかなり削平を受けていることが予想される。一方、以西の地域は地山の下降に対応してA地点付近まで遺物包含層が広がり、遺構の埋存を示唆する。

自転車置場アスファルト舗装および排水溝新設地域においては、工事に伴う掘削規模、すなわち、前者は現地表下40cm、後者は50cm下部までは腐蝕土および構内造成時の置土を含む表土で、顕著な遺構・遺物は確認されなかった。

（河 村）